

(様式6-3)

研修等 報告書

令和4年10月13日

三田市議会議長 北本 節代様

私は、研修等報告書を下記のとおり提出します。

会 派 名	代表者	
	議員名	肥後 淳三
参加者氏名	肥後 淳三	
講演会等研修名	第2回 森里海を結ぶフォーラム in 長良川～伊勢湾	
研修事項	映画「うみやまあひだ」・・・映画鑑賞と製作秘話 基調講演 島山重篤氏 森と海を結ぶ意見交換の広場(パネラー3名)	
日 時	令和4年10月10日(月曜日) 午前10時～午後4時30分	
場 所	鳥羽市民体育館 サブアリーナ 三重県鳥羽市大明東町4-8	
所 見 (別紙でも可)	別紙参照	
添付資料	・プログラム ・ ・ ・	・近鉄特急料金領収書 ・ ・ ・

添付書類(講演会内容のパンフレット等)

会派支給の場合、会派名、代表者名を記入の上、押印してください。

個人支給の場合、会派名(無会派は記入不要)、議員名を記入の上、押印してください。

第2回 森里海を結ぶフォーラム in 長良川～伊勢湾 報告

みだしのフォーラムに参加しましたので報告します。

開催日：令和4年10月10日（月・祝）10時～16時30分まで

場 所：鳥羽市体育館

主 催：第2回森里海を結ぶフォーラム実行委員会

参加者：肥後 淳三

フォーラムでの報告者：別紙プログラム参照

○フォーラム全体を通して感じたこと

午前は「うみやまあひだ」を映画鑑賞した後、映画監督鎌田雄介氏と木曾で檜を育てている池田木材(株)社長池田聡寿氏の映画を通じた思いが上映後語られました。

伊勢神宮に納めている「ご神木」を通じて山を守ることそして東日本大震災で失われてきた海岸線を取り戻す住民の取組みがフォーラムの主催団体である森里海を結ぶフォーラム実行委員会会長の田中克先生から紹介されるなど非常に感銘を受けました。

映画内では、森は海の恋人で知られているNPO法人海は森の恋人理事長の畠山重篤氏も登場するなど山と海、そして水の関係が深く掘り下げられた映画でした。

映画鑑賞後のリレートークの中で監督から「この映画を通じて日本古来より受け継がれてきた日本の良さが本当に現代に伝わっているのだろうか。の疑問も抱きながら映画を見て頂けると幸いである」のコメントがあり、映画製作側の意図が感じられました。

午後は、畠山重篤氏の基調講演、その後猟師興膳健太氏、鳥羽漁師の小浦嘉門氏、海の研究者である松田治氏から活動報告を受けました。最後には中村鳥羽市長をはじめ、活動報告していただいた皆さんが、山を守ること川、海を守るためにはどうすれば良いのかの議論で締めくくられました。

以下に会長の田中克氏他、基調講演や活動報告等、その中から私の所見を報告いたします。

○開会のあいさつ

*森里海を結ぶフォーラム実行委員会会長 田中克氏

地球に生まれてきて良かったと思えるように・・・原点は命の大切さである。

本日のフォーラムが単なるメッセージでなく行動を起こさせるフォーラムにしたい。

*鳥羽市長中村欣一郎氏

防災に絡み「雨と川そして海洋ごみ」が鳥羽市には大きな課題

10月8日は（トバの日）また、10月が（オクトーバー）となっていて鳥羽市内のイベントは多い。昨日も答志島の海岸でゴミ拾いをしていただいた。

○映画鑑賞「うみやまだあひだ」

伊勢神宮は20年に一度ご神木を変える儀式がある。その神木は、長良川の上流の森で伐採されている。神木に使われている材は100年以上育てたものであり、20年に一度のサイクルは地元の人たちの伐採儀式に始まり川を下り、伊勢まで筏で運搬する風習を生んでいる。なにを隠そう、これが檜の山を守り、育てることにつながっていることに気づかされる映画であった。

所見:この映画を三田市内の児童や生徒にも見せてあげたいと思う作品である。

○映画製作秘話トークショー

映画監督鎌田雄介氏と木曾檜を育てる池田木材(株)社長池田聡寿氏の映画を通じた思いが語られた。

鎌田監督談：映画フィルムは90分の5倍撮影したが、見て下さる方にとっては、90分が限界であり、泣く泣く90分にしている。この映画は、田中先生との出会いが無ければ生まれていない。

また、映画中に畠山さんや田中さんの海山に対する思いが自然に伝わる仕組みにしているが、日本古来の良さが本当に現代に伝わって行っているのだろうか。の疑問も抱きながら映画を見て頂けると幸い。

池田社長談：木曾は、97%が森、そのうち67%が国有林、9,700ha中3,600haを伐採禁止エリアに指定。伊勢神宮に「ご神木」を切る時は、木を寝かせると言っている。

林野庁の指導は、「伐採する時には、そのエリアの全ての木を伐採するように」との指導があるが、この手法であると後に篠が育ちすぎてしまい、植樹しても幼木が育たない。

本来であれば、間伐方式にして伐採をすると問題はないが、コストの面で難しい。

(田中会長映画に触れて)

白い砂浜が続く撮影地は、もともと9メートルの高さの津波堤防が建設される予定地であったが、地元の方々の「砂浜を守り残したい」という熱い思いで砂浜を残し内陸部に自動車道と兼用の堤防が出来ている。所見：津波から十メートル近い堤防で人の命を守る建設は、三陸海岸で進められてきており、海岸線が変わってしまう建設に対して肥後は心を痛めていた。この海岸も白浜がなくなるのか？と思っていたが、田中先生のこのコメントで海岸線が市民と行政との話し合いで守られたことに感動した。

○基調講演「NPO 法人 森は海の恋人理事長 畠山重篤氏」

- ・鳥羽は真珠の養殖で有名だが、私とのつながりは「牡蠣の種」で以前から往来していた。
- ・魚の養殖は餌代に60%とられるが、牡蠣の養殖は、海の栄養分で育つためにタダ同然の仕事(海のどろろぼー)と揶揄されてきた。
- ・しかし、赤潮など海の汚染が始まり、牡蠣が育たなくなった。
- ・これがきっかけとなり、河口から上流部へ歩くと、田んぼは生き物の存在が感じられなくなっていた。
- ・また、途中ではダム建設反対の看板が目についた。ダムの功罪についての知識はなかったが、山の生き物、川の生き物が沢山共存できる環境が川にも良いに決まっているし当然、海にも良いと感じた。
- ・TVに出ていた北海道大学の松永カツヒコ先生(分析学)を夜行列車を乗り継いで尋ねた。その時に得られたのは、川と海が交わる「汽水域」の話であり、植物プランクトンが育つメカニズムであった。
- ・この結果、山に落葉広葉樹を植える行動が始まることになる。
- ・ジョンマーチンの分析学(HNLC)を使うと鉄分が光合成には必要となるが、一般的な酸化鉄(錆)は、植物に吸収されにくい(細胞膜を通過しない)。
- ・広島の牡蠣が何故有名なのか、それは鉄分を含む花崗岩の山が多いことが原因。宮城の山も花崗岩でできている。
- ・落葉樹の落ち葉の中で「フルボ酸」が生まれ、これが酸化鉄と相性が良く吸収されやすい鉄に分解してくれていることが分かった。
- ・これが分かった時、私の山へ植林する行動が海としっかりつながっていることが嬉しかった。

所見：落葉広葉樹がもたらす海への効果についての話は、まさに海は森の恋人という名の通り相思相愛の関係であることが浮彫りにされた話である。このことから三田市については、森と川、湖しか持たないが、SDGsで言う所の「海を守ろう」の取り組みについても環境教育を通じて子供たちにアプローチすることができないものかと考える。

次の項目の活動紹介でも報告があるが、岐阜の山中の中学校が島へ渡り「海洋ごみ拾い」を通じた環境学習を実施している。

今後の三田の児童らの宿泊については、淡路島などの宿泊も検討されていると聞いているが、是非これらの取り組みを含めて実現していただければと思う。

○活動紹介

*興膳健太氏・岐阜県郡上で郡上里山(樹)、造林業を3年前から始めており猪の多い産地で「イノシカ庁」を立ち上げている。

- ・「事件は里山で起きている」・・・部長刑事版パロディー
- ・「猟師として生き、猟師として山を守る」をモットーに里山保全をしながら猟師として6次産業化に取り組んでいる。里山保全&獣害対策⇒狩猟システム開発⇒製造加工⇒サービスへと展開
- ・メンバーで完全伐採された山に入り植林を展開中
- ・全国猪食べ比べ大会を開催・・・日本一うまい猪が取れる山を目指すために実行。
- ・SDGsの取り組み、郡南中学校で島へ行き海洋ごみを拾う取り組みを展開

*山浦嘉門氏・・猟師歴48年、22世紀奈佐の浜プロジェクト委員長

・今、伊勢湾の海で何が起きているのか報告したい。長年ワカメや海苔を養殖しているが地球温暖化の影響か水温が下がらない状況が続いている。

・ワカメの新芽が出て魚が餌として食べてしまう。

・海苔も水温が下がらないために芽が出ない。

・平成19年の環境省の調査では、伊勢湾に川から流れ込むごみは1万2千トンになる。そのうちの6千トンが鳥羽市に流れ込む。またその半分の3千トンが答志島へ流れ込んでいるのが分かった。

・100年かけてごみをゼロに！の思いでこのプロジェクトを始めた。

・今、県境をまたいで大学生が答志島に結集200名が合宿している。

*松田治氏・・NPO法人里海づくり研究会理事長

・瀬戸内海の崩壊・・・1973年に瀬戸内法ができ①流入負荷の抑制②埋め立ての抑制が成されたが、埋め立ては全面が埋め立て禁止域にはならず海洋域の植物に影響が出た。

・瀬戸内海の生産量が減少している。

・瀬戸内海にそそぐ河川ダムは600基あるが、ダムによる瀬戸内海への総合評価はできていない。

○意見交換会

*鳥羽市水産研究所所長・・岩尾豊紀氏

・藻場と言われているところで海藻が減少している。

*鳥羽市長・・中村欣一郎氏

・藻は130種類中10種類が鳥羽で育ち食されている。

*NPO理事長 松田治氏

・秋になると海藻が育つ。水温上昇のために海水の酸性化、貝が育たない。海の底では低酸素状態。

*参加者：大津市から・・・滋賀県でも雪不足で琵琶湖の湖底が低酸素化、皆で考えていけば良いが・・・

*参加者：海通路 糸井氏・・・シーカーヤックをしている。10年ほど前の神奈川県相模湾では、海藻が邪魔になるくらい繁茂していたが、今は「きれいな海」となっている。海が変わりつつあることを実感している。

*興膳兼太氏・・・鹿は年間60万頭増えていると言われていて人間が狩猟する限界を感じている。

*岩尾所長・・・アワビが減ってきていると実感しているがデータ不足。

*松田理事長・・・関係職員の未来に向けての議論が不足している。

*中村市長・・・経験値での議論ではなく、鳥羽には研究所や大学が点在しており、連携して取り組むことも大切。

*松田理事長・・・夏場の水温はさほど変化ないが、冬場の水温が2度高い

*岩尾所長・・・海水温の上昇だけでアマモ（藻場）の減少は言い表せない。

*参加者（研究者）

・黒潮は東側から入ってくるのに対して藻場の減少は西側から始まった。

・水中の栄養分の減少も懸念している。

・河川の流量も途中で生活用水、工場水として取水されていることから、昔と異なり減少しているのが実態、逆に下水が流入していて、水の質自体に変化があると思う。

・下水処理場の排水基準は今後どうなるのか。各県も独自の基準があると聞いているが。

*三重県職員・・・窒素濃度が下がっている。平成29年から漁業関係者から魚が取れないと訴えが届きだした。この10月に下水処理場での放流基準を変えて窒素・リンを増やす計画があり、11月から試験を始める。今後の状況を見て議論したい。

*参加者から「問題提起だけではなく、課題は見つかっているのだからどうすればいいのか、どう行動すればいいのかも議論していただきたい」と提案があった。

また、中村市長へも「鳥羽を海のシリコンバレーにしてほしい」と注文があり、鳥羽市長が、「そのようにしたい」と答弁する場面もあった。

所見:意外と日本近海は地球温暖化がもたらすものなのか、海流の影響なのか、かなり危機に瀕している。

私達と直接関係する瀬戸内海にしても「いかなご」「タコ」の不漁は耳にするところである。

兵庫県でも下水処理場の放流水基準の緩和政策を取ってきている。持続ある社会の構築がいかに大切かをこのフォーラムを通じて理解することができた。

さらに、私たちの一人一人の行動は、どうあるべきなのか。

海に接していない三田市民も伊勢湾、瀬戸内海で起こっていることを自分事として捉えることが大切なのではないかと思う。

三田市のこれからのSDGsやゼロカーボンシティ政策についても「森里海が一つにつながっている」ことを意識させる取り組みを実行に移していただければと願うものである。

三田市議会議員 肥後 淳三